



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<http://sanchurch.jp/>

三軒茶屋教会通り

〒154-0024
 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
 TEL/FAX 03-3418-4933
 発行 三軒茶屋教会 広報部

第54号 2017年2月発行

「2020年問題」．昨年10月末に開催された第40回日本基督教団総会において最も切迫した問題であるとの共通認識に至った。

この問題は、統計上、2020年を境にして教団全体の教勢と財政は急激に減少の途をたどり、組織としての教団の維持が極めて危ぶまれるとの予測による。教団総会の開催方法をはじめ、教団全体の機構改編が急務であるという議論だ。

多くの教会では、いわゆる戦後教会ブームの世代が中心的な役割を担ってきた。その世代が現役として教会形成から離れ始める時期が2020年となる、そのような予測に立っている。

この議論は、既に前世紀末からなされてきた。しかし、多くの教会において、状況を好転させる打開策を見出せないまま今日を迎えている。今、「その時」がいよいよ目前に迫って来て、ようやく致して本気になって伝道に取り組もうとの呼び掛けがなされようとしている。しかし、この状況に陥った根本的な原因が認識され改善されない限り、伝道の呼び掛けは、声掛け倒れで終わりがかねない。

青年伝道の不振、教会学校の縮小、

家族内での信仰継承の停滞、そのような表面的な原因だけを語っていては何も変わらない。誰かの責任を追及したところで何の成果もない。

近年、三軒茶屋教会で洗礼を受けて入会された方、転入会された方の方々は、確かな救いと真の慰めを求めて主日礼拝に出席してきた方々だ。しかも、戦後キリスト教ブームの時代のような青年層ばかりではない。

海外で信仰に導かれた方、人生の晩年に近づいた方、「生きることに

幸いなるかな！ 2020年を越えていくために

牧師 伊藤英志

に真剣に向き合ったゆえの方など、それぞれ多様なきっかけがあつて教会の門に導かれている。聖書が証しする神、そして救いをもっと知ろうとする方々ばかりだ。

既に教会に結び合わされている人々は、そのような「求道者」を真摯に受け止め、迎え入れられる信仰を持っていくだろうか。新来会者から信頼されるに足る姿勢や態度を主日礼拝において保っているだろうか。「教会で〇〇さんの息子さん

娘さん」とは呼ばれたくない」「この歳になって『○ちゃん』呼ばわりされるのは不愉快だ」「過剰な期待をかけられては困る」これが実際に牧師に届く声の端である。

教会らしいこと、キリスト教らしいこと、キリスト者らしく見える振る舞い、そうした表面的な「らしさ」は、ごまかしに過ぎない。

はつきりと言おう。教勢が伸びない原因は、そこに十字架と復活のキリストを救い主と信じる信仰がないからだ。その時代特有の想い出に過ぎない「信仰的なもの」をいつまでも保とうとしていくに過ぎないからなのだ。



年頭の初週
 祈禱会では詩編1編を読み解いて祈りを献げた。「幸いなるかな！その人は」と始まるその御言葉にあるように、世の現実が如何にあつても、真に幸いなる人として歩み行く、路に立ち戻れるわたしたちでありたい。主の論しを喜びとし、天にあるご計画を世に現す義の実を結び続けるわたしたちでありたい。

「2020年」を何らの支障なく乗り越えていく、それは可能だ。その教会に本物の信仰がある限り、必ずや可能なのだ。